

令和4年度第10回南相馬市小高区地域協議会 会議録

- 1 日 時：令和5年2月27日（月）
午後2時00分～午後5時10分
2 場 所：浮舟文化会館 研修室1・2

【出席委員名 13名】

会 長	林 勝 典	委 員	堀 内 洋 伯
副会長	阿 部 貞 康	委 員	小 牛 田 一 男
委 員	末 永 義 人	委 員	末 芳 治
委 員	小 林 友 子	委 員	飯 塚 宏
委 員	本 田 博 信	委 員	杉 重 典
委 員	西 山 喜 代 子	委 員	志 賀 由 紀 夫
委 員	渡 邊 静 子		

【欠席委員 2名】

委 員	半 谷 善 弘	委 員	半 谷 恵 美 子
-----	---------	-----	-----------

●南相馬市職員

小高区地域振興課長	佐藤 克巳
小高区市民総合サービス課長	高野 真至
小高区地域振興課おだかぐらし担当課長	志賀 和浩
小高区地域振興課自治振興担当係長	烏中 いずみ
小高区地域振興課副主査	大場 優
小高区地域振興課主事	森 和紀
復興企画部次長兼企画課	猪狩 忠信
企画係長	内城 弘志
企画課副主査	武内 秀斗
企画課副主査	山下 綾菜
鹿島区地域振興課自治振興担当係長	佐伯 雄一
文化財課長	鈴木 悦子
文化財課埋蔵文化財担当係長	川田 強
学校教育課学務係長	武山 有香
学校教育課学務係主任栄養士	鈴木 美智代

観光交流課長
観光交流課 係長

平田 良親
原 重幸

1. 開 会

○事務局

只今より令和4年度第10回小高区地域協議会を開催いたします。本日の会議の成立要件につきまして、事務局より報告を申し上げます。

本日の欠席委員は、半谷 善弘委員、半谷 恵美子委員です。地域協議会委員15名中、13名の出席ということで、過半数を超えております。協議書10(2)により、本日の会議は成立しております。初めに、林会長からご挨拶をお願いいたします。

2. 会長あいさつ

小高区地域協議会 林会長よりあいさつ

3. 議 事

○事務局

議事の進行については、規定により、会長が会議の議長となります。林会長、よろしくをお願いいたします。

(1) 議事録署名人の指名

○林会長

それでは、次第により議事を進めてまいります。

はじめに、会議録署名人の指名ですが、会議録署名人は、渡邊 静子委員、堀内 洋伯委員の2名にお願いします。

(2) 諮問事項

- ・南相馬市第三次総合計画前期基本計画（案）について

○林会長

諮問事項「南相馬市第三次総合計画前期基本計画（案）について」を議題といたします。

○事務局

本日、市長が別公務のため、小高区役所長から諮問を行います。

○小高区役所長

(諮問書の読み上げ)

○林会長

それでは、ただいまの諮問について担当課の説明をお願いします。

企画課より説明

○林会長

皆様からの質問・ご意見がありましたらお願いします。

○末委員

資料1-2にパブリックコメントへの意見と市の対応が記載されているが、「貴重なご意見として、今後の業務の参考とさせていただきます」という回答が多いが、これはつまりどういう事なのか。

○企画係長

事例として、資料1-2の1ページのNo. 2のご意見を用いて、ご説明をさせていただきます。「ワクチンの製造工場が生物兵器工場になってしまう」というご意見ですが、こちらのように今回の基本計画への直接的なご意見ではなく、市政全般に関するご意見もいただいております。今回の基本計画については、具体的な取組の方針までは掲げさせていただいておりますが、それに対し個別・具体的なお要望もいただいております。その中身について、計画書に反映する部分については、具体的にコメントをさせていただき、計画書とは別な時点で検討するものについては、「参考とさせていただきます。」という回答をしております。

○堀内委員

資料1-3の84ページ、主な取組み例の中に「旧避難指示区域への移住相談窓口の運営」とあります。これについて、なぜ原町で運営を行うのでしょうか。小高区役所で運営できないのでしょうか。小高区の移住定住を推進するのであれば、小高区役所で運営するのがいいのではないのでしょうか。

○企画係長

令和3年4月から旧避難指示区域における更なる移住定住を促進するため、小高区役所内に「移住相談窓口」を設置しています。

また、令和4年7月から旧避難指示区域も含め、市全体として、広く移住を検討されている方向けの移住相談窓口や、移住者と地域の方との交流の場づくり、高校生のキャリア相談の場づくりを創設するため、『みなみそうま移住相談窓口「よりみち」（原町区旭町地内）』を開設しています。

○林会長

皆さんからいただいたご意見も含め、今後の計画に十分に生かしていただけるということで、小高区地域協議会の意見をまとめたいと思います。妥当であるとの意見で異議はありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○林会長

それでは、本日諮問された「南相馬市第三次総合計画前期基本計画（案）について」を答申致します。

(答申書の読み上げ)

○小高区役所長

ありがとうございました。

・南相馬市第三次国土利用計画（案）について

○林会長

諮問事項「南相馬市第三次国土利用計画（案）について」を議題といたします。

○事務局

本日、市長が別公務のため、小高区役所長から諮問を行います。

○小高区役所長

(諮問書の読み上げ)

○林会長

それでは、ただいまの諮問について担当課の説明をお願いします。

企画課より説明

○林会長

皆様からの質問・ご意見がありましたらお願いします。

○林会長

ないようですので、只今の説明を受け、小高区地域協議会の意見をまとめたいと思います。妥当であるとの意見で異議はありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○林会長

それでは、本日諮問された「南相馬市第三次国土利用計画(案)について」を答申致します。

(答申書の読み上げ)

○小高区役所長

ありがとうございました。

(3) 報告事項

・鹿島区自治振興基金の活用について

○林会長

報告事項「鹿島区自治振興基金の活用について」担当課の説明をお願いします。

鹿島区地域振興課より説明

○林会長

皆様からの意見がありましたらお願いします。

○小牛田委員

6ページの表の21番に「財調繰入」とあるが、これは市の一般会計に繰り入れたということでしょうか。

○鹿島区地域振興課 自治振興担当係長

お正しの通りで、財調に繰り入れをしておりました。その時の経過について、詳しく確認をしておりませんが、財政的に厳しい時期があり、鹿島区の自治振興基金から財政調整基金の方に繰入をするということで、財政当局から鹿島区地域協議会へ諮問があり、妥当であるという答申を受け、繰入をした経過がございます。

○小牛田委員

この時の1億円だけでなく、23年度以降ずっと使わずに置いておくのであれば、全額市の一般会計に戻してもよかったのではないのでしょうか。未だに2億円も持っているのは不自然でないのでしょうか。

○鹿島区地域振興課 自治振興担当係長

鹿島区自治振興基金をどういうことに使うか、ということに関しては、ある程度考えがありまして、合併前から温浴施設を作りたいという話がありました。

基金の財源の大きなものとして、南柚木にあるサテライト鹿島の売上げの0.5パーセントが、鹿島区に交付金として入ってくるようになっております。これを何に使うかについては、地元対策ということで鹿島区の環境整備に使うことが目的とされております。主には道路整備になるのですが、そういった目的があることから一般財源に全額繰入をすることはできないため、毎年数百万ずつ積み立てをする形となっております。

○林会長

そもそもの基金の収入源は何なのか。

○鹿島区地域振興課 自治振興担当係長

積立がはじまった経過として、合併前にそれぞれの市町の中で、鹿島区のために使うものとして、基金を積んだというのがはじめかと思います。その中で、サテライト鹿島の売上げの一部を交付金として、合併前から積み立てておりましたので、それについては自治振興基金に積み立てをしております。細かい数字については、本日資料を持ち合わせておりませんので、後日事務局を通じて提出をさせていただきます。

○林会長

各区に自治振興基金はあります。小高区の自治振興基金については、個人が特定できるものには使用してはいけないということになっています。今回報告していただいた使い方だと、個人の特定ができる使い方になっています。鹿島区の地域協議会が了承しているのですが、意見をすることではありませんが、色々な面で自治振興基金のあり方について見直しが必要なのかな、と思っております。

・浦尻貝塚史跡公園整備事業について

○林会長

報告事項「浦尻貝塚史跡公園整備事業について」担当課の説明をお願いします。

文化財課より説明

○林会長

皆様からの意見がありましたらお願いします。

○志賀委員

体験型の展示があつたらいいと思います。発掘体験などができると、興味を持ってもらえるのかな、というのが率直な感想です。

○文化財課埋蔵文化財担当係長

ご指摘のように、体験型のイベント等についてはサポーターの皆さんに色々検討をしてもらうことを考えております。国指定の史跡のため、発掘体験はできないのですが、土器を拾ったり、拾った土器を観察していただくことはできますので、皆様からご意見をいただきながら、活動をしていければと考えております。

○末委員

貝層のはぎ取りパネルの展示について、はぎ取ったものではなく、むき出しで見学できるところはあるのですか。

○文化財課埋蔵文化財担当係長

むき出しで展示すると史跡の保存上問題があるということで、なかなか展示ができていないというのが、全国的な実状です。そのようなことを解消するために、はぎ取りパネルを施設内に入れて展示するというのが、今回行おうとしていることです。ただ、一部小さいものではあります。メンテナンスができる大きさのものを、実際あつた場所、建物の外側で展示することも考えております。

○末委員

実際にあつた場所がこういう地形で、こういうところにあつたというのを、見に来た人も知りたいと思うし、体験できていいと思う。

○文化財課埋蔵文化財担当係長

維持管理・メンテナンスという面では、技術的に難しいところがありますが、一般の方であれば現物かどうかわからない精度の展示ができると思います。これは技術的にはけっこう難しいもので、今回、浦尻貝塚で行おうとしている方法は、新しい技術を取り入れており、全国的に初めてのパターンだと思います。できるだけ臨場感のあるものを目指して作っております。

○西山委員

ガイダンス施設や展示施設などありますが、どれぐらいの人数を想定して作っているのですか。

○文化財課埋蔵文化財担当係長

平成29年に作った基本計画では、年間1万人の目標値を記載しております。これは、ただの展示だけではかなり厳しい数字だと思います。体験型展示や遺跡関係のイベントの実施、また遺跡に関係しないようなイベントであっても、ガイダンス施設は使えますので、朝市をやったりコンサートをやったり、というかたちで活用していただき、目標値に近づけていきたいと考えております。

○飯塚委員

いまは縄文ブームなんかもあるので、体験型のイベントがあれば1万人はすぐ達成できると思います。あるところでは縄文時代の服を着て、竪穴式住居に1泊するとか、土器づくり体験・火起こし体験・矢じり作り体験など、そういったイベントがあれば、遠方から車で来る方もいらっしゃると思います。星なんかも見られると思いますので、そこに宿泊して焚火体験なんかもできるといいと思います。人を集めるためには、志賀委員さんが言った体験型イベントを開催すればいいと思いますが、その時の管理をどうするかという問題が出てくるかと思っておりますので、そこは考えて欲しいと思います。

○小林委員

浦尻の施設内、もしくは施設の近辺にキャンプ場を作る予定はないのですか。

○文化財課埋蔵文化財担当係長

施設内にキャンプ場を作ることはできませんが、隣接地に作るということは考えられるかと思っております。イベント的に施設の敷地内でやることはできると思いますが、常設は難しいです。行政だけで施設の活用方法や体験型イベントについて考えると、どうしても固くなってしまうので、来年度から有償サポーターを募集して、活用方法を考えていただこうと思っております。

○堀内委員

小高の小・中学生はすでに総合学習とかで利用していると思います。令和6年に全体供用開始ということですが、主要道路沿いに浦尻貝塚までの案内看板を設置する予定はあるのですか。

○文化財課埋蔵文化財担当係長

令和5年度中から設置を始めて、最低限6号線からの順路はわかるように設置していきたいと考えております。マップ等の作成も進めております。はじめは十分でないところはあると思いますが、令和6年の供用開始までに順次進めていきたいと考えています。

○堀内委員

浦尻貝塚史跡公園と連携して、福浦小学校の利活用を要望していましたが、それは考えていますでしょうか。

○文化財課埋蔵文化財担当係長

福浦小学校については、庁内で関係部署が調整を行っている状況かと思えます。いまお問い合わせいただいた件については、議論として挙がっている内容ではありません。

○林会長

看板はなるべく目立つように作ってください。

・南相馬市学校給食提供体制基本方針（素案）に係るパブリックコメント手続の実施について

○林会長

報告事項「南相馬市学校給食提供体制基本方針（素案）に係るパブリックコメント手続の実施について」担当課の説明をお願いします。

学校教育課より説明

○林会長

皆様からの意見がありましたらお願いします。

○阿部委員

新設される給食センターでは3000食の給食を提供するというご説明がありました。令和8年度には、小学校・中学校の生徒を合わせて2993人になると見込んでいるようですが、教職員の分は入らないのですか。

○学校教育課学務係長

令和8年度の2993人は南相馬市全体の生徒数の見込みとなっております。鹿島区の生徒・職員の給食については、現在鹿島区にある給食センター

で作りますので、新設される給食センターでは小高区・原町区の生徒・職員の給食を作ることになります。原町区・小高区だけだと2000人くらいになりますので、十分に提供が可能です。

○阿部委員

小高小学校・中学校の給食室は、学校再開に合わせて改修した為、きれいな状態です。これが使われなくなってしまうのはもったいないと思います。他の小中学校の給食室についても、建物の中にあることから取り壊しは難しいと思いますが、利活用についてはどのように考えているのですか。

○学校教育課学務係長

小高小学校の給食室は、学校再開に合わせてフルリフォームして、エアコンも設置していることから、「まだまだ使える」という話は庁内でも出ており、リスク分散の観点から残した方がいいのでは、という議論がありました。ただ、管理・運営の面から言いますと、鹿島の給食センターを残し、原町に新しく給食センターを作り、小高の給食室も残すというのは、契約の問題や発注の問題など、事務が煩雑になることもあり、集約化したほうがよいと事務局としては考えております。ただ、施設も新しく、復興交付金も入っているため、廃止すると交付金を返還しなくてはなりません。今後の持っていき方として、災害時に活用することを目的に残すというのは、考え方としてあると思っております。

○阿部委員

現在考えられている「リスク管理」というのは、あくまでも給食センターに何かあった場合のリスクだけだと思います。災害時に避難所になったところに給食施設があると、炊き出し等に活用できると思います。鹿島に給食センターがあり、原町には給食センターができる、小高には何もない。そういうところはどのように考えているのでしょうか。小高区の住民は小高中学校に避難することになっています。一般住民が避難した際の炊き出し施設として活用することを考えて、維持管理して欲しい。

○西山委員

給食センターの廃止について、給食室の老朽化という話があったので、仕方がないと思って説明を聞いていたのですが、子どもを育てる上で、食育はとても重要です。現在小高の子どもたちは、給食室で作った温かい給食を食べていると思います。センター方式だと、冷たいごはんや冷凍食品を食べさせることになるのではないのでしょうか。小高小学校・中学校の給食室がまだ使える状態なのであれば、残していただきたいです。管理のことや、働く人

が少ないから給食センターにするという考え方ではなく、もっと子どものことを考えて欲しいと思います。

○学校教育課学務係主任栄養士

現在南相馬市では、市内すべての幼稚園から中学校まで、毎日同じ給食を提供しています。また、冷凍食品は極力使わないようにしております。これについては鹿島の給食センターでも同じです。今後、給食センターになることで冷たい給食が届くのではないかと、冷凍食品が増えるのではないかとのご心配が出てくるかと思えます。それに関しては、南相馬市としては食育の観点から、極力手作りの給食を提供することは譲れないところだと考えています。

○西山委員

総合計画の資料によると、約40%しか地元産の食材を使っていないとのことでした。地元を愛する心というか、おいしい食材を作っているところに住んでいるということ、給食を通して子どもたちに教育をして欲しいです。

○学校教育課学務係主任栄養士

地元産の食材について、今年度は44.9%、昨年度は39%でした。営農再開に伴い、毎年少しずつ使用量は増えております。その都度、給食の献立表に「のまたん表示」をつけて、地元産の食材の紹介をしています。ただ市内全部の学校給食が統一献立のため、地元産の食材を使うとなると必要量がかかなり多くなります。そういった場合、ある程度、区を限定するなどして地元産の食材を使用するなどしておりますが、今後も最大限に活用をして、指導をしていきたいと思えます。

○林会長

センター方式にすることで使わなくなってしまう各学校の給食室は、災害時に代替的に使うことも考えて欲しい。

・関係案内所運營業務について

○林会長

報告事項「関係案内所運營業務について」担当課より説明をお願いします。

観光交流課より説明

○林会長

皆様からの意見がありましたらお願いします。

○志賀委員

民間事業者の入居については、具体的な話があるのでしょうか。そしてそれが、駅周辺の活性化につながるという構想があるのでしょうか。

○観光交流課長

JR が進めている民間事業者の入居については、JR からの正式なプレスリリースがあるまでは公表しないよう、先方より話があった為、申し訳ございませんが、ここで事業者名をお伝えすることは差し控えさせていただきます。

○志賀委員

民間事業者が駅を活用する具体的な時期はいつ頃なのですか。

○観光交流課 係長

入居の時期につきましては、令和5年3月31日に市が賃貸借契約を終了し、その後速やかに新たな取組みに関する準備を進めるということ、JR 側から聞いております。

○志賀委員

その事業者は見守りもしてくれるのでしょうか。そこまでは関与しないかたちなののでしょうか。

○観光交流課長

JR で進めている内容については、ある程度飲食スペースを整備することを考えており、そこには従業員がおりますので、ある程度見守りの機能も果たせるのではないかと認識しております。

○小林委員

最終の電車まで営業をしてくれるのですか。また、見守りをしてくれるように要望を出すことはできるのでしょうか。

そして、なぜ市でこの予算を出せなかったのか、この事業を実施していた3年間でどのくらい予算を使ったのかも併せて伺いたいです。

○観光交流課長

飲食店の営業時間については、こちらで確認はとれておりません。また、終電まで営業をしていただきたいという要望については、JRに提出することは可能かと思えます。

予算については、関係案内所運営事業として1年間で約500万円の委託費、3年間で約1500万円の予算を計上しておりました。それ以外に、JRから駅舎を借りる費用として年間50万円程の費用が掛かっておりました。来年度、この事業に予算を計上しなかった理由について、まずこの事業は3年間の契約でスタートしたものでした。当初JRと共同で交流人口拡大のためのツアーやイベント等を企画しておりましたが、新型コロナウイルス感染症流行の影響等により、それらの企画が実施できず、目的が達成できなかったことから、継続は難しいと判断いたしました。

駅舎が利用できなくなったことで、高校生や乗客の方が電車を待つ場所がなくなってしまうことへの対策としましては、交流センターを利用させていただくよう、ご案内をしていきたいと考えております。

○小林委員

小高駅では約400人の高校生が毎日乗り降りをしています。主に小高以外の、鹿島・相馬・新地の子どもたちです。14時から16時の間に電車の本数がとても少ないです。交流センターは電車を待つ場所としては遠すぎます。

そもそも住民が要望していたのは駅での子どもたちの見守りです。交流人口の拡大は要望していません。それを市が事業の理由としてつけて、実現できないから撤退しますというのは、市は何を考えているのかと思えます。

○観光交流課長

小高駅の見守り機能としては、この事業で十分に達成できていたものと認識しております。交流人口・関係人口を増やすという目的で、観光交流課が主管課として担当しておりました。JRが企画するツアーの中で、主に創業支援とかビジネスマッチングの方面で駅を活用し、ゆくゆくは移住定住につなげていければと思っておりましたが、そこについては難しいという判断をいたしました。

○林会長

実際にJRからイベント等の提案はあったのか。

○観光交流課長

令和元年度にはスタートアップ事業ということで、小高の企業の応募がありました。特に常磐線が全線開通したことで、東京方面からのお客様が増え

ることも見込んでおりましたが、新型コロナウイルスの影響で実現することができませんでした。

○林会長

新型コロナウイルスがあったから活動できなかった。活動できなかったから成果が出なかった。成果が出なかったからやめたいというのはどうなのか。そういう話はおかしいのではないか。駅というのはその町の顔です。その顔をつぶしたらどうなるのか。

400人の子どもたちが朝夕乗り降りして、小高に来ている。少なくとも、浪江・双葉・大熊の駅よりも利用者は多いはずです。JRは利益優先と言いながら西郷線などの赤字路線の再開を検討しているくらいだから、政治的にしか動いていない。

年間50万円の家賃を払っているという話は、いま初めて聞いた。なぜ駅舎の管理をしてやっているのに家賃を払わなくてはならなかったのか。むしろ「お金を払うから管理してくれ」と言われてもおかしくないくらいだ。そもそもスタートするときの受け方がおかしかったのではないか。その辺について回答してください。

○観光交流課長

令和2年2月に開催した地域協議会の報告でも、「ジョブマッチング事業」・「企業人材育成事業」をやります、というご説明をしております。その時はJRと連携した事業ができるだろう、小高への関係人口を増やし、移住・定住してくれる方が増えるだろうと見込んでおりましたが、なかなか成果を得ることが難しいということになりました。

○志賀委員

資料に記載されている「①駅利用者の見守り」がこの事業の8割のウェイトだと思います。①以外の残り2割の活動がうまくいかないからやめようというのは、話的におかしいと思います。

これは私が聞いた話ですが、そもそもこの事業自体を、委託会社に丸投げしているから市が実態を知らない。だから、発言もあいまいになっているのだと思います。

○観光交流課長

市としましては、現状駅守の活動が主なものになっているという実態は把握しておりましたが、事業を委託していた会社には①～④のすべての事業を均等に手掛けて欲しいと考えており、①以外の事業についてはこの先実施を望めないという結論になりました。

○志賀委員

駅守業務だけじゃダメなのでしょうか。

○小林委員

今まで駅守の方たちは16時から20時まで活動して、その時間帯で駅舎を自由解放してくれていました。駅の待合室はとても寒いです。その寒い中で子どもたちが長い時間待たなくてはいけないのがかわいそうだということで、エアコンを設置できないかと要望した。そしたらエアコンは設置できないということだったので、駅舎の中が使えるように申請をしたわけです。ただ、駅守業務だけだと駅舎を借りることが難しかったので、こういった事業をつけたのだと思います。それはわかりますが、本来駅に人を配置することは、子どものためのことのはずです。子どもの命に関わることに市の予算がつかないことが理解できません。遠方から小高に通学している子たちが、駅舎でどのように過ごしているかご存知ですか。親が遅くまで仕事をしていてなかなか迎えに来ることができない子どもたちを、駅守の方たちが見守ってくれているんです。その子どもたちの命に関わることに、なぜ市の予算を付けられないのか、もっと考えて欲しい。一番大切なのは子どもたちです。教育が大事と言っているにも関わらず、ここに予算を付けられない市の体質は何なのですかね。もう1度見直してほしい。

○観光交流課長

繰り返しになりますが、観光交流課の事業としては、駅守業務だけに予算を取りづらいというのが現状です。

○林会長

今回の件については、JR側が断ってきたのか、市が「もう駅舎は借りない」といったのかどっちなのか。どちらなのかによって、今後の交渉の仕方が変わってくるので、そこははっきりして欲しい。

○観光交流課 係長

経過としまして、3年で契約期間が満了となるためJR側から継続するかとの問い合わせがありました。事業を委託しているNCLに問い合わせたところ、継続についてお断りのお話があり、他の事業者を探したがみつかることができなかったことから、契約を終了することとなりました。「契約を更新しないのであれば、こういった話もあります」ということで、JRから話があったのが、民間事業者による駅舎の活用の件です。

○林会長

つまり、市はその話に乗って事業をやめることにしたということでしょう。観光交流課で対応できないのであれば、なぜ他の部署へ業務を移管するなどして、継続できる方法を考えなかったのか。復興事業としてまだ途中の段階。移住定住という話があったが、小高駅に来て誰もいない、話を聞きたくても飲食店の人しかいないというのはどうなのか。本当に小高を復興させる気があるのか。考えが甘すぎる。

○志賀委員

富岡の駅も、食堂・コンビニを置いたが採算が取れず撤退してしまった。そのあとに観光協会がその場所に入りました。今の時代、テレビ電話でもなんでも繋がりますので、小高駅も観光協会を置いてもいいのではないのでしょうか。

民間だとフレックスタイムで働くようなこともできますので、そういったことをすれば、高校生の最終電車の時間にも人を置くこともできるでしょうし、小高観光協会はいま区役所の中にありますから、歩いてくることもできます。知恵を絞ってもう一度白紙に戻して考えてみてもいいのではないのでしょうか。

○飯塚委員

五区行政区でも、小高駅は町の玄関口だと思っているので、清掃したり景観維持活動をしたりしてきました。JRから1度もお礼を言われたことはありません。駅についても民間ボランティアの方が、クリスマス飾りや七夕飾りをしているのを観光交流課の方も見たことがあると思います。私たちは、小高の玄関口だと思うから、そういう活動を継続してきたが、市がそういう考えなのであれば、行政区もそういった活動をするのを辞めたくなくなってしまいます。

○林会長

報告事項として、こんな時期に出てくるような話ではないと思います。

○杉委員

鹿島駅でも同じような駅守活動をしていると思いますが、どの様にやっているのでしょうか。

○小高区地域振興課長

鹿島駅の見守りは相馬救援隊の方が対応しております。市のふるさと応援交付金 協働のまちづくり事業として予算を確保してやっているようです。

○小牛田委員

鹿島駅の駅舎についても、JRに家賃を払っているのか。

○小高区地域振興課長

おそらく支払っていると思います。

○杉委員

鹿島駅のできるのであれば、子どものためを考えて小高でも同様の活動ができるのではないのでしょうか。

○小林委員

産業技術高校の父兄はきっと不安だと思います。

○林会長

駅で商売をはじめたとして、最終電車が出る頃まで営業していても売れないのではないか。高校生は多少利用するかもしれないが。志賀委員の話にもあったように、富岡駅のお店のように撤退してしまうのではないか。

○末委員

そうなることは目に見えている。

○堀内委員

一般の方からも「終電の時に駅に誰もいない駅はどうなんだ」という声を聞いたことがあります。今でさえ、高校生が利用する時間に管理人がいない時もある。裏面に、少年指導員の巡回を増やすとあるが、限界があると思います。

交流人口が増えないことに関しては、特急電車が止まらないことや電車の本数が少なくなっていることが大きな要因です。そういうことをどんどん要望していかないと。浪江駅や双葉駅や大熊駅のような人が少ない駅に特急を停車させるような無駄なことをしているのに、なぜ小高駅のように人が住んでいる駅に特急が停車しないのかを知りたいです。人口の減少についても、特急が止まらないことが影響していると思います。

○林会長

いまの話については、JRにきちんと伝えておいてください。

○末委員

この話はこれで終わりなのか。小高駅への特急の停車や駅員の配置については、継続的に要望はできるのか。

○阿部委員

JRの公式発表はいつあるのですか。それがわからなければ、次に動きようがない。

○志賀委員

駅に3月20日で駅守事業が終了する旨は書いてありました。なので、事業が終了することは発表したのと同じですね。

○林会長

色々話がありますが、この後どうするかは考えます。ただ、JRと市でどっちがどのように事業終了について話したのかについては、はっきりしていただきたい。そうでなければ、この後どう動くかが決められない。

駅は町の顔です。入口です。粗末にしてはその町が発展しない。なんだかんだ言って、小高に足を運んでくれる方は多い。そういう方に対し、きちんと対応して、温かく迎えらるるようになければ、段々と人が来なくなってしまふ。JRはただ単純に「赤字だからダメ」としか考えていない。

この件について意見書はついていませんが、ご意見がある場合は遠慮なく出してください。市長もわかっていることかと思しますので、私からも市長に苦情を伝えたいと思います。

○末委員

自治振興基金を活用してできることはないのか。地域協議会で話し合っ
て、なんとかしていくことはできるのではないか。

○小高区地域振興課長

この件については、観光交流課だけで収められるものではないと思いますので、もう一度市の中で検討をしたいと思います。JRの件につきましては、公共交通の担当部署で、特急が停車するようにして欲しいという要望は毎年行っております。ただ、JR側からははっきりと「できません」という回答が来ております。しかしながら、要求は今後も続けていきます。

○西山委員

駅守の廃止について、小高産業技術高校のPTAにはお伝えしているのでしょうか。強盗の件もありましたし、保護者の皆さんにはきちんとお知らせし

て欲しいです。また、見守りが続きますように小高区役所でもこの件については検討をして欲しいと思います。何か起きてからでは遅いですし、大人の目があるというのは、非行を防止するための手立てだと思しますので、よろしくお願いたします。

○林会長

この件については、この辺で終了したいと思いますが、ここで出た意見はしっかりと上に報告してください。

・令和5年度小高区自治振興基金の活用について

○林会長

報告事項「令和5年度小高区自治振興基金の活用について」担当課より説明をお願いします。

小高区地域振興課課より説明

○林会長

皆様からの意見がありましたらお願いします。

○末委員

「高校生による小高区の実践事業」は具体的にどういったことに予算を使う予定なのか。

○小高区地域振興課自治振興担当係長

この後、高校生に実際の活動について発表をしていただきますが、来年度については、小高区のイベントに参加することや独自の事業としてカラオケ大会等の開催、インスタグラムで小高の魅力を発信することを考えております。また、新潟県燕市のまちづくり団体との交流事業が今年度から始まりまして、来年度、高校生と職員が新潟県に視察に行くための旅費を計上しております。そのような理由から、令和5年度の予算は令和4年度に比べて増額しているところです。

○末委員

活動しているメンバーは何人くらいいるのか。近くに産業技術高校があるのだから、30人くらい参加する事業にして欲しいのですが。

○小高区地域振興課自治振興担当係長

現在7名の生徒が参加しております。今後も活動人数を増やしていきたいと考えておまして、燕市への旅費も15名分計上させていただいております。今後もメンバー募集に力を入れていきます。

○志賀委員

鹿島区の自治振興基金の話が先ほどありました。運用方法について、鹿島と小高でだいぶ違うものだなと思って見ておりました。これはどうなのでしょう。

○小高区地域振興課自治振興担当係長

小高区においては地域協議会で活用方法について毎年ご相談をさせていただき、小高独自の事業を展開するために充当しております。

○飯塚委員

今までもいい活動がたくさんあったと思いますが、結局目にしていないのでわからない、というのもあると思います。活動内容をパネルにして駅通りに貼っておくと、「先輩が写ってる！」と興味を持ってくれると思います。小高だけでなく、原町の駅通りにもぜひ。

○小高区地域振興課自治振興担当係長

貴重なご意見ありがとうございます。検討させていただき、出来ることから実施していきたいと思っております。

○渡邊委員

小高川の河川敷の桜の木のテングス病対策に予算を計上していますが、消毒だけでしょうか。枝の伐採はやらないのでしょうか。

○小高区地域振興課自治振興担当係長

剪定は現在も行っております。テングス病対策として、疾患部を剪定し、切り口などに殺菌剤を散布するようです。

○西山委員

高校生事業については、小学生・中学生の時から継続して参加できるようにできないでしょうか。縦に年代の繋がりを作ることで、活動の幅にも広がりができると思います。

○小高区地域振興課長

ただいま西山委員からご意見をいただきました件については、重要な課題として捉えております。事業が始まった頃に比べ活動人数が少なくなっており、また高校生ですと部活動や進学・就職への準備などもあり、活動できる時期や期間が限られております。その辺も踏まえて、小学生・中学生も含めて活動に参加していただけるよう、学校へも活動を紹介していきたいと思っております。

4. その他

(1) 高校生による小高区での実践事業 令和4年度活動報告

事務局・活動メンバーより説明

○堀内委員

先ほど委員の皆さんからもお話があったのですが、小学生や中学生にもこの活動に参加して欲しいと思っていますので、その際は小さな子も温かく見守って、受け入れていただけると嬉しいです。

○末委員

秋祭りとお高産業技術高校の文化祭を同時開催するなどして、町と地元の高校との交流の機会ができるといいと思う。

○小高区地域振興課 担当職員

小高産業技術高校の生徒会に入っているメンバーもいるので、事務局からも学校に対して、そういったことができないか相談をしてみたいと思えます。

○林会長

この活動を通して大変だと思ったことは何ですか。

○佐藤さん

私は今年度、この活動のリーダーをさせていただいたのですが、人をまとめたり、イベントをするにあたって企画を立案しスケジュールリングしていくことが難しかったです。

○飯塚委員

活動の周知になると思いますので、今年度の活動を1枚のパネルにまとめるなどして、学校に展示してもらうこともぜひ検討して欲しい。

(2) 次回会議開催について

事務局より説明

○林会長

その他、委員・事務局からありませんか。

○西山委員

結婚祝い金や、仲人祝い金などの制度はあるのでしょうか。最近若い人とお会いすることがあって、なぜこんないい人が結婚していないんだろう、ということがありましたので、ぜひそういった制度があればと思いました。

○小高区地域振興課 おだかぐらし担当課長

「結婚新生活支援事業助成金」という制度があります。住居費・家具家電購入費などを支援するもので、40歳未満の夫婦が対象となります。

○堀内委員

市で作成している「さあ、行っといで。」というポスターについて、町から出て行ってしまったまま帰ってこないような文言に感じてしまう。「帰っておいで。」みたいな内容のものや、外から呼び込む内容のものも欲しい。

○林会長

「行っといで。」は方言的に「行って、帰っておいで」のような意味があると思う。私たちくらい世代だとその辺のニュアンスがわかるが、若い人たちにはわかりにくいのかもかもしれない。

5. 閉会

○事務局

以上をもちまして、令和4年度第10回小高区地域協議会会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

令和4年度第¹⁰回小高区地域協議会会議録

小高区地域協議会長 林 勝典

会議録署名人 渡辺 静子

会議録署名人 堀内 洋伯

